

1. 研究の目的

鬼怒川温泉は栃木県日光市の鬼怒川上流域にある温泉。箱根や熱海と並んで「東京の奥座敷」と呼ばれ、年間200万人以上の宿泊客で賑わう温泉地ですが、廃墟ホテルが多く取り残されているのが有名である。それは、「マスツーリズム」から「ニューツーリズム」への旅行スタイルの変化に耐え切れず、放置されたのである。現在経営しているホテルは「ニューツーリズム」の変化にどのように対応してきたのかを研究し、「ニューツーリズム」への成功例と失敗例の条件を探っていく。

2. 「マスツーリズム」とは？

第二次世界大戦後に米国・西欧などの先進諸国において発生した、観光が大衆（マス）の間に広く行われるようになる現象、及び大衆化された観光行動を指す。主に、「パッケージ化」と「規格化」に特化した旅行スタイルである。

しかし、1970年代にはマスツーリズムの弊害が指摘され始めていた。一度に多量の観光客が押し寄せることによるさまざまな問題であった。一つ目は「自然環境の破壊」観光客による環境汚染、観光施設を作るための環境破壊などの自然環境に関する問題が指摘される。二つ目は「利益の収奪」観光地への利益還元を疑問視されている。

「ニューツーリズム」とは？

1980年代ごろから生まれた、テーマ性のある新しい旅行スタイルであり、「持続可能な観光」が国連で定義されると、徐々に団体旅行が社会的、生態的に与える負の影響について問題視され始めるようになりになった。

また、ニューツーリズムはその地域特有の産業にふれたり、自然や歴史、文化を体験したり、長く同じ場所に滞在することで現地の人との交流を楽しんだりなど、特定のテーマ性を持った旅行を指している。

ニューツーリズムは多くの旅行者が一度に楽しむ旅行ではなく、個人のニーズに合わせた旅行スタイルであるので、旅行者を受け入れる地域にとっても負担が少なくなることが考えられる。

訪日外国人旅行者の中でも、旅行に対するニーズは多様化しており「今までとは違う、深い体験をしたい」という人が増えてきています。より多くの「日本らしさ」を求める外国からの旅行者にとって、ニューツーリズムの取り組みは親和性の高い旅行の提供につながります。

3. 今後の研究

長期休暇中に鬼怒川温泉に行き、鬼怒川・川治温泉観光情報センターに聞き取り調査を行う。また、現地周辺の調査とホテルのオーナーから聞き取り調査も行う。